

# 卓球競技へのレイティング導入 ～年齢・性別・身体能力に捉われない大会を目指して～



羽曳野市卓球連盟主催卓球大会の風景

#スポーツ  
#競技評価  
#ジェンダー平等

## DATA

- 主な連携先・メンバー  
羽曳野市卓球連盟／各種卓球競技団体
- 活動地域  
連携する卓球競技団体の所在地
- 活動期間  
2000年度～継続中
- 活動資金  
特になし

## 目的

- (1) 卓球競技における技能レベル認定制度の確立および大会運営のサポート
- (2) 年齢や性別差、身体差、能力差、技術差を超え、老若男女の卓球能力向上を目指す

## 連携に至る経緯

2000年度に、米国卓球連盟のレイティングシステム創設者からレイティング制度の趣旨とその波及効果について情報を得た。日本ではまだ制度化されていない実情を知り、日本卓球協会の世界卓球選手権優勝者等との親交もあって同制度の普及に取り組んでいる。

## 活動内容

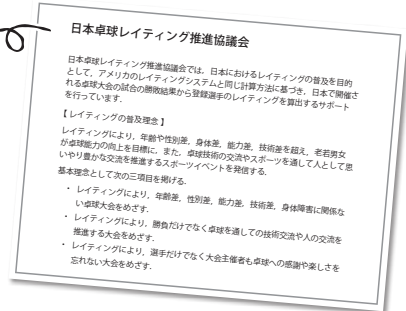
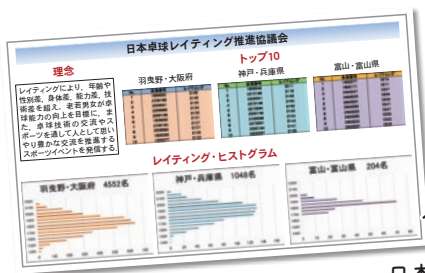
レイティングとは、対戦する競技者の勝敗とレイティング（ポイント）差によって、各競技者のレイティング値を更新する技能認定法である。本システムを日本卓球界で普及させるにあたり「日本卓球レイティング推進協議会」を設立した。当該団体は大会主催者（羽曳野市卓球連盟等）から競技者の勝敗データを提供してもらい、計算処理プログラムにより競技者のレイティング値を計算し、ウェブで公表するボランティア団体である。また、大会の運営方法や計算内容も無償で提供している。一方、地域の各種卓球競技団体は、レイティング大会

を開催し、参加者は自動的に自己のレイティング値で評価される。大会主催者はレイティング値を活用して従来の年齢別や性別、身体能力（パラ）に捉われないジェンダー平等の大会を構成する。

これまでの実績から、レイティング大会は、競技者技能の正当な評価、大会運営の公平性の確保、年齢・性別・障がいを越えた社会交流の促進等、従来の常識の枠を越えたスポーツ交流の実現が可能である。制度利用団体のさらなる拡充に向け、地方の競技団体に対して制度利用を働きかけている。

第67回羽曳野卓球レイティングシステム大会

日本卓球レイティング推進協議会のホームページ



日本卓球レイティング推進協議会の理念とレイティング結果

## 活動の成果

- ≫ 8,300人以上の会員登録
- ≫ 多数の卓球競技団体でレイティング大会を実施
- ≫ 大学の学際的知見によるスポーツを通じた新たな人間交流の創出

## 今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 卓球以外の対戦型スポーツ競技におけるジェンダー平等の技能評価
- ≫ 対戦型スポーツやeSports、囲碁や将棋等のゲーム等における技能評価
- ≫ レストランや店の評価、絵画や映画の評価、あるいは、会社の人事評価

総合情報学部 教授 林 勲 Hayashi Isao



専門は脳知能情報学。ソフトコンピューティングによるAI・データサイエンス、ファジィシステムと深層学習によるスポーツ戦略分析と医用人工知能の研究に従事している。



## 連携先からの一言

日本卓球レイティング推進協議会の公式ウェブサイト、レイティング計算方法・特徴・効果・全国のレイティング結果が掲載されています。

(羽曳野市卓球連盟)